



三次中央会報

ロータリークラブ

2022-2023 ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2710

事務所 / 広島県三次市十日市東 1-16-19
 TEL (0824) 64-1245
 FAX (0824) 64-1245
 E-mail m-c-rc@vega.ocn.ne.jp
 http://mccrc.server-shared.com
 例会場 / 広島県三次市十日市南 1-10-1
 三次グランドホテル
 例会日 / 月曜日 12:30~13:30

- 本日のプログラム ゲスト講演 / プログラム委員会
 広島県議会議員 下森宏昭様
- 次回例会日時 2023年3月13日(月) 12:30~
- 次回プログラム PETS報告

会長 / 沈 勝 義
 幹事 / 中 島 清 貴

●2022~23年度 国際ロータリーのテーマ



●2022~2023年度 三次中央RCスローガン

ロータリアンであることを
 強くイメージし、
 奉仕の喜びを分かち合おう

■第1375回例会記録

- 日時.....2023年2月27日(月) 12:30~
- 点鐘.....会長
- 国歌「君が代」斉唱.....全員
- ソング「我らの生業」.....全員
- ゲスト紹介
- | | |
|-----------------|------------------|
| 駐広島大韓民国総領事館 総領事 | イムシフン
林 始興様 |
| ” 専任研究員 | チェ ウンソク
崔 恩碩様 |

■開会挨拶.....沈 会長

大韓民国総領事をお迎えして

皆さんこんにちは。今日はゲストをお迎えするというので、小根森会員が生花を活けてくださいました。タイトルは「歓迎」だそうです。小根森さんありがとうございました。

そして、今日は広島県で唯一の外国公館である、広島韓国総領事館から、イムシフン総領事をお招きしてのゲスト講演となっております。総領事様、後ほどよろしくお祈りします。また、専任研究員のチェウンソクさんには通訳をよろしくお祈りいたします。

さて皆さん、中国地方の要である広島県に、いったいどれだけの外国公館があるのかご存知でしょうか。残念ながら、大使館をはじめとする、いわゆる領事館などの正式な外国公館は、広島県には韓国総領事館しかありません。正式な名称は「駐広島大韓民国総領事館」と言います。その他には、名誉領事館と言われるものがいくつかあります。例えば、広島洋菓子店であるアンデルセンには、在広島デンマーク王国名誉領事館が、またマツダ(株)には在広島メキシコ合衆国名誉領事館など、それぞれの国に関係が深い企業や団体な

どが任命されているようです。

そもそも、広島韓国総領事館も、広島に新たに設置されたものではなくて、山口県の下関市にあった、下関韓国総領事館が移転し、名称変更したもので

す。歴史を振り返ると、1965年に戦後処理を含めた日韓会談により、日韓協定が結ばれ国交が回復されました。そしてその翌年1966年5月には早くも下関領事館が設置されたのです。おそらく、戦後日本には多くの在日韓国人が居住しており、韓国に最も近い国際港であった下関を經由して、日韓の往来が多かったこともその理由の一つだったのでしょう。

その後は日韓の貿易などが活発になるにつれ、1980年5月に領事館から総領事館に昇格。1997年1月に移転し広島総領事館として、早や26年が過ぎました。



在日韓国人の組織である民団という団体で、わたしの父が1991年から94の3年間、広島県の団長をしていた時期に、総領事館移転の話題が浮上していることを、聞かされたことがあります。国際平和都市として国内外に唱えていた広島に、初めての外国公館として韓国総領事館が誘致されることを、ウキウキしながら聞いていたように思います。

余談ですが、もう10年も前のことになりますが、私自身も2013年から16年の3年間、広島民団の団長をしておりました。そのおかげで2014年3月に赴任された、徐張恩総領事の、特別な就任祝賀会に招待されたことを今でも記憶しております。場所はリーガロイヤルホテル広島32階にある特別会場で、参加者には、総領事をはじめ、湯崎知事、松井広島市長、そして当時の林県会議長、広島商工会議所の深山会頭を含め、僅か10名ほどの、そうそうたる方々の中に加わり、緊張しながら夕食をご一緒させていただいたことを、今でも懐かしくも少し誇らしく思い出します。

なんだか最後は、自慢話のようになり恐縮ですが、あとは後半のプログラムで総領事にお任せすることとし、会長の挨拶を終わります。

■**幹事報告**.....**中島幹事**

- 吉舎で行われるIMの出欠を回覧しています。全員登録となっております。万障お繰り合わせの上、ご参加ください。
- 本日お越しのイムシフン総領事からのプレゼントをお手元にお配りしています。お礼の拍手をお願いします。



総領事から全員にゴルフボールのプレゼント♡

■**出席報告**.....**平田委員長**

- 第1373回 2月13日

会員数	35名	Make-up	0名
欠席	4名	出席合計	31名
欠席者のうち規定免除	2名	出席率	93.93%

- 第1375回 本日の出席は35名中31名です。

■**SAA**.....**石田SAA**

- 会員誕生日...松本君



- 会員ニコニコBOXご出宝

松本君 夫婦揃って元気に誕生日を迎えました。(大口)
 沈君 総領事様をお迎えて。本日はよろしくお願ひします。(大口)
 酒井君 国際奉仕委員会担当です。韓国総領事をお迎えて。よろしくお願ひいたします。

「ゲストに韓国総領事様をお迎えて」

沖君、平田君、上田君、信国君、小根森君、角谷君、竹野君、杉谷君、光永君、池田君、阿部君、山縣君、中西君、石田君

ニコニコBOX本日出宝額 28,000円

本日は国際奉仕委員会の担当例会です。ゲストに駐広島大韓民国総領事の林始興(イム シフン)様をお迎えしました。「地方から考える韓日交流」というテーマでお話いただきます。

また専任研究員の崔恩碩(チェ ウンスク)様には前で同時通訳をしていただきます。それではよろしく願います。

酒井正治国際奉仕委員長

地方から考える韓日交流

駐
広島
大韓
民国
総領
事館
総
領
事
林^{イム}
始^{シフン}
興



私は一昨年6月に総領事として着任しましたが、三次市は今回で5度目の訪問になります。市長への表敬訪問から始まり、奥田元宗美術館や風土記の丘等を訪問しました。三次市が誇ります三次ワインもいただきました。おそらくG7広島サミットという一大行事を機に三次ワインの名声もさらに高まるのではないかと思います。

今回は広島民団団長を歴任されました沈勝義様のご厚意で三次中央ロータリークラブの皆様の前で卓話することになりました。タイトルを「地方からみる韓日交流」にしましたが、堅苦しい話になるのではないかと、少し気にもなります。

本題に入る前に私の履歴に少し触れますと、私は韓国外交部で29年以上勤めています。アメリカやブルネイでも勤務しましたが、私の外交部経歴の大半は中国関連の仕事で、日本勤務は今回が初めてです。初めてまともに経験する日本生活は楽しい驚きに満ちているものです。韓国の知人から「広島勤務はどうか」と聞かれると私はいつも「大変いい」と返事したりします。

さて、広島の総領事として着任してから改めて思いましたのは、私たちが住んでいるこの中

国地方は本当に韓国に近い、ということです。本州の西端をなす中国地方が韓国と地理的に近いのは言うまでもありませんが、着任してからさらに気づいたのは歴史上でもこの地域は韓国と近いということです。三次市が中心をなしていた古代の韓日交流もさりながら、瀬戸内海沿岸は1607年以來の朝鮮通信使の舞台でもあります。この地域は250年間、韓国から見れば日本の関門にあたりました。

そのような歴史背景の上で今もこの地域では韓日間の交流が活発であります。わが総領事館が担当している地域は中四国地方の広島県・山口県・島根県・愛媛県・高知県ですが、下関市と釜山広域市、広島市と大邱広域市、呉市と昌原市、島根県松江市と晋州市などなど、枚挙にいとまないほど自治体同士の姉妹交流が行われています。特に、山口県萩市は韓日国交正常化直後の1968年に韓国の蔚山市と姉妹縁組をしており、これは両国自治体同士の交流でもっとも早い例に含まれます。

このような自治体同士の交流というものは実はロータリークラブとも無関係ではないことは特記すべきものです。何気なく「姉妹都市」「姉妹縁組」「姉妹交流」とか言いますが、これらはいたるどころ、都市間交流をベースにし、その国境を超えた都市間交



通訳の崔恩碩さん

流の一翼をロータリークラブが担ってきているからです。

ところで、面白いのは、国境を超えた都市同士の交流は国同士の関係がいい時よりも難しい時期が過ぎたあとに活発化される傾向があるということです。第2次世界大戦後、ドイツとフランスの都市間交流がその一例です。悲惨な戦争が終わった後、平和構築のために都市間交流を進めようというアイデアが提起され、驚くことに1千にのぼる都市間交流が進められました。敵国同士であったドイツとフランスの友好が回復したベースにはこのような都市間交流の活況がありました。こういう交流がもとになって戦後ヨーロッパの和解と平和の流れが作られたのは忘れてはならないことです。これが種になってヨーロッパ共同体が出現したといっても過言ではありません。

私たちの地域に目を向けてみますと、中国地方では広島市と大邱広域市の交流がもっとも活発で持続性を持っているのではないかと思います。この両自治体の交流が成功している要因は何かを考えてみました。

一つは、行政レベルの定期的で持続的な交流であると思います。市長や市議会同士が相手都市を相互訪問してきているのを取り上げられます。二つ目は、両自治体の人々が相手都市のさまざまな行事に積極的に参加していることを考えられます。そして三つ目に、各自治体に存在するさまざまな職能団体、たとえば弁護士会等が相手都市の相応する職能団体と交流して、自治体交流に幅を利かせていることも重要です。

交流の主体と中身は実に多様ですが、私が特に重視しているのは未来を担う若者・青少年同士の交流です。今年に入って韓国の高校生と広島の高校生との交流が再開して、両国高校生が総領事館を訪問したことがあります。目の当たりにした青少年交流の様相は実に興味津々で深い印

象を受けました。お互いの言葉があまりわからなくても、子どもたちは身振り手振りで意思疎通したりスマホの通訳機能を使って話し合ったりしながら友情を深めていました。総領事館を出発して空港へ向かう韓国高校生たちを、日本の高校生たちがいつまでも手を振りながら見送る姿はいまでも脳裏に鮮やかです。自治体交流の一環として若い時から青少年交流をこのように進めていけば、将来より良い韓日関係は必ず成り立つと思ったりしました。この場の皆さまにも、青少年交流に関心を持っていただくことを願います。

最後に、本日のテーマとかかわって、ロータリークラブの皆さまに是非お願いしたいことがあります。まず、三次市にはすでに泗川市という姉妹都市があります。しかし、どうやらここ何年間は交流が下火になっているようです。この泗川市との交流を再活性化することに関心を持ってください。

次に、特に韓国のロータリークラブとの交流にも関心を持っていただきたいと思います。国境を超えたロータリークラブ同士の交流が活発化すれば、その草の根ネットワークの力で三次市と韓国、日本と韓国の交流も倍一層強化されると期待しております。

本日はご清聴ありがとうございました。



沈会長 林 総領事 崔 専任研究員